

令和4年度 第4回地域における大学振興・若者雇用創出事業評価委員会  
議事要旨

日時：令和5年1月13日（金）9：00～12：00

場所：中央合同庁舎8号館7階 ABCD会議室

## 1. 議事

### (1) 本申請：地方公共団体Aの審議

- ・事務局より、書面評価から現地評価までの主な論点について説明があった。
- ・地方公共団体Aから事業説明があり、その後、委員による質疑応答が行われた。
- ・質疑応答の後、審議が行われた。委員から、以下のコメントがあった。
- ・大学が今後、申請テーマの領域において、グローバルな視点で見た時に研究者、学生にとってのファーストチョイスなるという確信が持てない。
- ・テーマの産業分野で継続的に地域に人材を呼び込むには、ビジネスモデルが高収益で高所得になる必要があるのではないか。テクノロジーイノベーションと同時にビジネスイノベーションの問題が全産業共通としてある。
- ・規模の小さな大学の役割としてローカルに限定した人材育成もあり得る。
- ・川下企業のニーズを川中企業や企業群であるクラスターが十分に把握しながら進めていくことが分かった。
- ・非常に強い技術を持っていることが分かった。

### (2) 本申請：地方公共団体Bの審議

- ・事務局より、書面評価から現地評価までの主な論点について説明があった。
- ・地方公共団体Bから事業説明があり、その後、委員による質疑応答が行われた。
- ・質疑応答の後、審議が行われた。委員から、以下のコメントがあった。
- ・事業責任者が熱意を持っていることを評価した。中核企業と大学との関係を見て先に進みそうだと感じた。
- ・人材育成と技術開発のマッチングを、再度議論をしてほしい。
- ・生産性向上やGXに特化するとされているが、大学を中心としてテーマの産業分野の研究をやりたいのではないか。
- ・研究開発と人材育成に一貫性があまりない。どういう人材育成でどういった付加価値がついているのかが不明確でないかと考える。
- ・技術的な強みが設備というのは、違和感がある。当然、コンセプトの強みが説明されなければならないが、何をやりたいのかが明確でない。

- ・今の状況で、国費支援して実行した時に方向性の修正、計画全体の統一感を出すのが難しいのではないかと考えている。
- ・大学全体の主体的な関与が、明確でない。肝心な人材育成にしても既存のプログラムを拡充することに留まっているのではないか。
- ・テーマとなる業界が重要なだけに、もう少ししっかり計画を作りこんでもらわないと現実的に事業実施は難しいのではないか。

### (3) 本申請：地方公共団体Cの審議

- ・事務局より、書面評価から現地評価までの主な論点について説明があった。
- ・地方公共団体Cから事業説明があり、その後、委員による質疑応答が行われた。
- ・質疑応答の後、審議が行われた。委員から、以下のコメントがあった。
  - ・大学という組織は変化のスピードが遅い傾向にあるが、今回の申請では、必要とされる人材を養成する組織改革をかなりのスピードで行っていただいたと感じている。
  - ・現地調査で地場企業の若社長が今回の事業に大きな期待を寄せていることが非常に印象的だった。

以上の議論を踏まえ、地方公共団体A、Cの申請は評価委員会において採択、地方公共団体Bの申請は不採択と評価された。

以上